

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：清流の国ぎふ水みちの連続性確保にむけた取り組み～河川環境と農村環境の生態系ネットワークの再生～		
水系/河川名：0	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：km2	整備計画流量：m3/s(W=1/)	セグメント：0
事業：環境整備	事業開始年度 平成26年度	
目標設定：定量的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：貴重種・特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

岐阜県では平成23年度より「清流の国ぎふ」づくりを目指し、水みちの連続性を確保する取り組みを実施している。また、平成27年には清流長良川の鮎が世界農業遺産に認定され、「里川」における生物多様性の維持・保全に取り組むこととしている。

河川と農村では生物多様性保全の取り組みをこれまで各々で実施しているが、河川と排水路に落差があることで、魚類の生育環境が分断されている。また、岐阜県水産研究所の調査で、落差の有無が農業水路内の生息魚種数に影響を与えることが明らかになっている。

<目標>

生物多様性保全のより一層の保全を図るため、河川と農業水路間等の落差を解消し、河川－農業水路－水田の水みちの連続性を確保する。

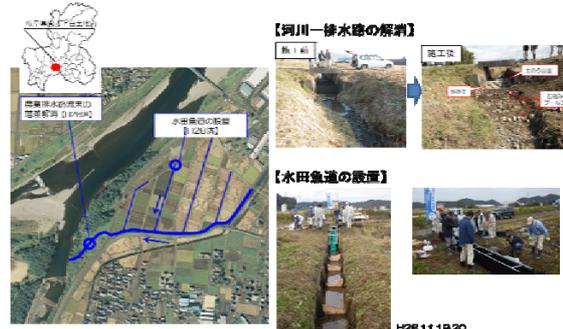
取り組み内容・対策例

平成26年度から、モデル的に県内3地区で河川－農業水路－水田までの水みち連続性確保の取り組みを実施している。

○関市 千疋地区

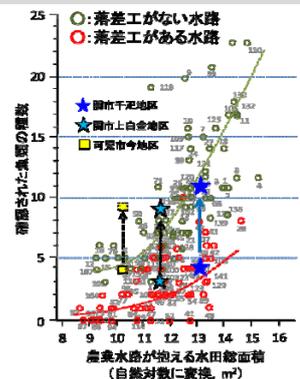


○関市 上白金地区



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- ・河川部局と農政部局、地域が連携して取り組みを実施し、有識者からの提案助言を受けながら実施している。
- ・事前・事後モニタリングの結果、農業水路に生息する魚種・生息数ともに大幅に増加した。
- ・仮想的市場評価法(CVM)により本取り組みによる環境効果の評価を行った。
- ・今後、算定した環境効果をもとに、費用対効果(B/C)の算定を行い、事業としての評価を行う
- ・さらなる取り組みの拡大に向けて、実施内容とその効果を広く周知していくとともに、実施地域へ取り組みの効果が還元できる仕組みづくりを検討する。



備考

問い合わせ先 岐阜県 県土整備部 河川課 企画環境係
 電話番号 058-272-8585

清流の国ぎふ水みちの連続性確保に向けた取組み ～河川環境と農村環境の生態系ネットワークの再生～

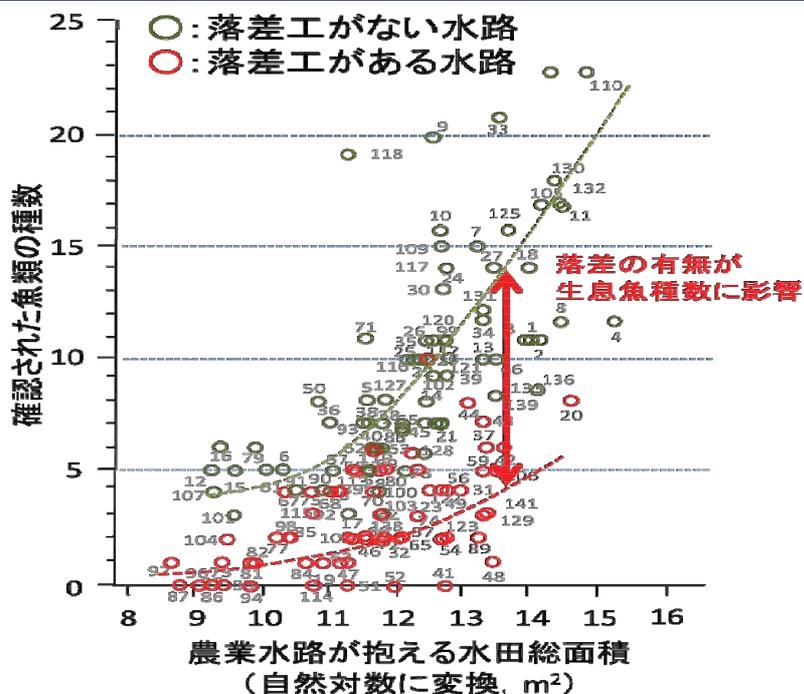
Keywords : 生物多様性, 水みちの連続性, 地域連携

取組事例 1

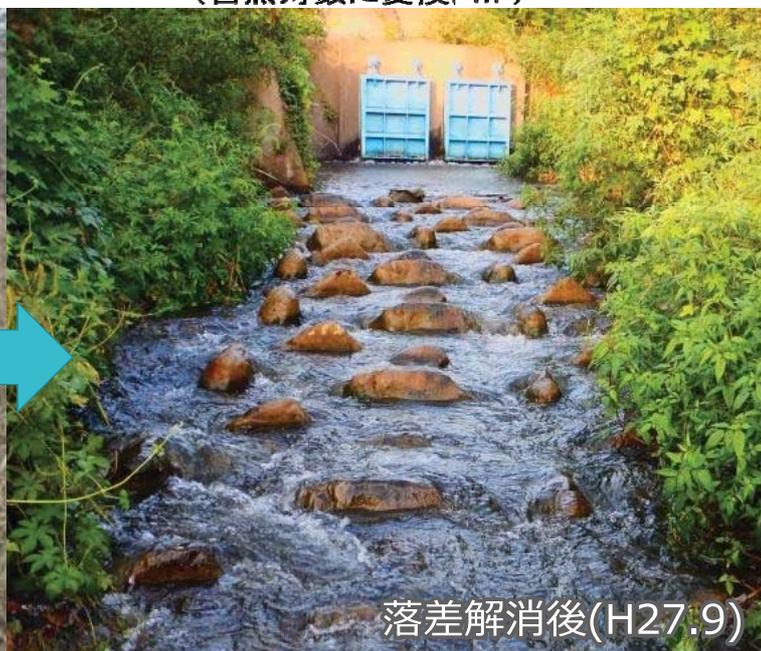
● 落差工有(例)



● 落差工無(例)



取組事例 2



河川と農業水路に落差があることで、農業水路内の生息魚種数は少なくなっており、生息環境が河川・農村部にそれぞれ限定されている状況にある。生物多様性確保のため、これらの落差を解消し、河川—農業水路—水田までの水みちの連続性を確保した取組みについて紹介する。